

令和5年度 新人戦

審判マニュアル

令和6年3月9日(土)

関西学生弓道連盟

目次

I. 審判の資格	2
II. 審判の権限	2
III. 事前準備	2
IV. 試合当日の流れ	3
V. トラブル対策	8
VI. 各種留意事項	9
VII. 各種 Google フォーム	12

I. 審判の資格

- ・各校主将の推薦する、規約を熟知し、かつ公平な判断の出来る者。
- ※必ず規約・試合マニュアル・審判マニュアル等を熟読しておくこと。
- ・主審は、原則2回生以上とする。(人数的に不可能な場合のみ1回生主審も可能)
- ※審判の推薦状は、試合開始時の立順の交代・提出の際、それぞれの主将に手渡す

II. 審判の権限

- ・審判は規約第54条の通り、試合においては絶対的な権限を持つ。したがって、何事においても審判として恥ずかしくない態度をとらなければならない。なお、競技中にトラブルが発生した場合には、規約を参照し、それに従い審判各自の意見で処理し、判断できない時には、電話で学連の本部に問い合わせる。
- ※審判はあらかじめ関西学生弓道連盟規約第2編「競技規則」を熟読しておくこと。

III. 事前準備

1. 審判派遣の場合

- ・審判派遣校の主審は、試合3日前までに以下の内容を記載したメールを、試合校両校の主将に連絡すること。
- メール記載内容
- ①主審及び副審の氏名・メールアドレス・電話番号を記載(緊急時の対応のため)
- ②CCに総務のメールアドレス(kangakuren.soumu@gmail.com)を入れる

- ・また、試合3日前までに審判員登録のGoogleフォームに回答すること。

2. 審判兼道場提供の場合

- ・審判兼道場提供校の主審は、試合案内確定版を確認後、試合3日前までに以下の内容を記載したメールを、試合校及び審判校の主将に連絡すること。また、送信する際にCCに総務のメールアドレス(kangakuren.soumu@gmail.com)を入れること。
- メール記載内容
- ①タイムスケジュール(詳細はIV. 試合当日にて記載)
- ②お迎えの場所
- ③各校が使用可能な付け矢的の数、及び巻藁の基数
- ④主審及び副審の氏名・メールアドレス・電話番号
- ⑤その他必要事項

- ・また、試合3日前までに審判員登録の Google フォームに回答すること。

3. 当日用意するもの

- ・矢筒、矢一手（矢振り用）。（三つ巴の場合は先攻・中攻・後攻を記載した紙と封筒3枚）
- ・筆記用具
- ・**審判推薦状**
- ・結果報告用紙（関学連ホームページに掲載）
- ・同中競射用結果報告用紙（関学連ホームページに掲載）
- ・審判意見書（関学連ホームページに掲載）
- ・印鑑
- ・双眼鏡
- ・試合校・審判員の連絡先
- ・対面マニュアル
- ・関西学生弓道連盟規約、全日本学生弓道連盟規約
- ・服装：袴もしくはスーツ
- ・通信環境（フォームへの回答送信の為）

VI. 試合当日

1. タイムスケジュール

【試合校の一方が道場提供校（審判派遣）の場合】

- ~~10:00~~ お迎え
- ~~10:10~~ 挨拶、交渉
- ~~10:40~~ 射込み・付け矢開始
- 11:50 審判校お迎え
- 12:00 審判校挨拶（両試合校の代表者と審判員が挨拶）
- 12:10 付け矢終了、的替え・持ち的確認
- 12:30 試合開始

【審判兼道場提供の場合】

- 9:50 試合校 A お迎え
- 10:00 試合校 A と審判校挨拶、試合校 B お迎え
- 10:10 試合校 B と審判校挨拶、試合校両校挨拶、交渉
- 10:40 射込み・付け矢開始
- 12:10 付け矢終了、的替え・持ち的確認

12：30 試合開始

※審判兼道場提供校である場合、審判員以外に、お迎え・的替え・試合中の的立て直し等を行う人数を確保して頂きますようお願いいたします。

※決勝戦は12時開始のため、上記のスケジュールを30分ずつ前倒しして下さい。

※道場提供校の各加盟校において、お迎えの場所から道場までの距離等はそれぞれ異なると思いますので、上記のスケジュールから少々変更して頂いても問題ございません。

2. 試合開始までの流れ

【審判派遣の場合】

- ①道場に到着次第、試合校両校の代表者と挨拶。
- ②的替え及び持ち的確認に立ち会う

【審判兼道場提供の場合】

- ①試合校が到着次第、挨拶
- ②交渉に参加し、道場使用する際の各種連絡事項を伝える。
- ③両試合校が付矢を行っている間は待機。
- ④的替えは、審判員以外の人で行う。審判員は的替え及び持ち的確認に立ち会う。

3. 試合開始

- ・主審は、整列の号令前に両校責任者（主将）に試合開始の了承を得る。
「少々お時間が早いようですが、試合を始めさせていただいてよろしいでしょうか。」
「お時間となりましたので、試合を始めさせていただいてよろしいでしょうか。」
- ・試合の号令

主審：「両校ご整列願います。」

主審：「只今より、令和5年度新人戦、〇〇大学対〇〇大学の試合を執り行います。試合に先立ちまして、両校主将は、立順の交換ならびに提出をお願いします。」

※この際、審判員にも立順を提出すること。審判員は立順届を受理した後、審判推薦状を試合校両校に提出すること。

主審：「試合の先攻、後攻は規約により、矢振りによって決定させていただきます。両校主将はじゃんけんをお願いします。」

（副審は、じゃんけんの後、矢筒から矢を少し出して、甲矢と乙矢の確認をじゃんけんで勝った方からしてもらおう。両校の確認が終わったら、一旦、矢を取り出し、今度は筈を下にして矢を入れ、蓋をする。ついで、矢筒を背中に回し、よく振る。その後、矢を段違い

に少し出し先程のじゃんけんで勝った方の大学から引いてもらう。この際、甲矢を引いた方が先攻、乙矢を引いた方が後攻となる。）

※矢振りの方法について一例として提示致しますが、各校の行い方に基づいて頂いて問題ございません。

主審：「只今の矢振りの結果、先攻〇〇大学、後攻〇〇大学と決定いたしました。尚、この試合は、全日本並びに関西学生弓道連盟規約に則って執り行います。両校、礼。」

4. 試合中

○試合に関する諸事項

- ・ 36 cm星的、射距離 28m。
- ・ 6 人立（5 名でも出場可）。3 的展開の場合は、3 人立。
- ※3 的展開の場合の試合の流れ（男子リーグ戦と同様、一立毎に先攻後攻を入れ替え）
①A 校前立→②B 校前立→③A 校後立→④B 校後立→⑤B 校前立→⑥A 校前立（以下同様）
- ・ 立の時間制限はなし
- ・ 矢数は一射手一立二手十二射。（ブロック決勝及び決勝戦は 1 人 20 射）

○試合中の流れ（三つ巴の場合も同様）

- ①射位に入り、行射開始。
 - ・ 審判員は、記録用紙に的中を随時記録する。この際決して誤りが生じないように記録すること。
- ②行射終了
- ③的中確認
 - i) 行射を終えた試合校又は道場提供校の合図で、的前審判が的前に入る。
 - ii) 主審「的中確認をお願いします」。的前審判「はい」
 - iii) 的前審判「大前〇中です」。主審「はい」又は「もう一度確認をお願いします」※これを「落」まで行う
※この間、審判員の方は記録用紙の記載内容と的中確認の内容を照合して下さい。
- ④矢取り
- ⑤矢取り終了次第、次の立開始。（①に戻る）
 - 選手交代の書面を受け取った場合は、選手交代の内容を記録用紙に記入。※対面試合では、原則として立間の休憩時間は無しとする。

○選手交代について

- ・ 選手交代は 5 射目から可能。
- ・ 選手交代は人数無制限であるが、立位置の変更や選手交代後の再出場は認めない。

・選手交代する際、各校は立の交代前に立順変更届を審判員及び相手校に提出すること。通知されていない場合、当該選手の引いた射は失中となります。

※原則、審判員からの選手交代通知の要求はしないこととする。

○**的中確認の監査について**(規約第 64 条より各加盟校は原則として監査員を配置すること)

- ①監査は疑問を感じた時に的中確認を止めることができる。
- ②監査が的中を的前審判に再確認させる権利は矢取りを行う人が矢に触れるまでとする。
- ③審判員は返事をする前に監査を一度確認すること。

例 (2 的中の問題がある場合)

的前審判：「2 的、3 中です」

監査：手を上げながら的前審判に確認の中断を指示し、その後主審に対して「再確認します。」と声をかける。

主審：「はい」

的前審判：「2 的、皆中です」

主審：「はい」

その後確認を続ける。

5. 試合終了

・整列前に、主審と副審は双方の記録用紙の照合を行う。

・整列の号令前に、主審は両校責任者（主将）に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板（記録用紙でも可）の通りでよろしいでしょうか。」

主審「結果送信フォームに添付しますので、お立ち合いをお願いします。」→フォーム送信

※黒板で確認する際は、事前に、審判員の記録用紙と黒板の記載内容を照合する。

・試合終了の整列

(第一戦からブロック決勝戦まで)

主将「両校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちとします。両校校、礼。」

(三つ巴決勝戦)

主審「各校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、中攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって(順位の宣言 1 位・2 位・3 位)とします。各校、礼。」

○**同中競射の場合**

・整列の号令前に、両校責任者（主将）に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板（記録用紙でも可）の通りでよろしいでしょうか」

・同中競射告知の整列

主審「両校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって同中のため、只今より、一手競射を行います。競射の先攻後攻は規約により、矢振りによって決定させていただきます。…（以降の手順は試合開始時と同じ。）」

※一手競射にて決着がついた場合は、試合終了後の手順に以降し、決着がつかなかった場合は、一本競射を行う。この際、先攻・後攻は、先の一手中競射の先攻・後攻を入れ替えて行う。以降、一回ごと交代し、勝敗が決定するまで、一本競射を繰り返す。（このとき毎回、両校を整列させてその旨を伝える。）

※三つ巴の場合は、試合開始時と同様に封筒を順に引いて一手競射の先攻・中攻・後攻を決定する。以降は下記の通り順番は一つずつずらして行う。

（一手競射：先攻A校・中攻B校・後攻C校→一本競射1回目：先攻B校・中攻C校・後攻A校→・・・）

・同中競射を、通常の試合同様に行う。

・同中競射終了後、整列の号令前に、両校責任者（主将）に試合結果を確認する。

主審「試合の結果は、黒板（記録用紙でも可）の通りでよろしいでしょうか。」

主審「結果送信フォームに添付しますので、お立ち合いをお願いします。」→フォーム送信

・試合終了の整列

主審「各校ご整列願います。」

主審「只今の試合の結果、先攻〇〇大学〇中、後攻〇〇大学〇中、よって〇〇大学の勝ちとします。各校、礼。」

※競射においては立ごとに選手交代が可能。

○試合終了時における審判の仕事

①試合結果報告書を、結果報告フォームに送信する。

試合終了後整列の号令前に、各試合校代表者 1 名の立ち合いの下、フォームの送信を行うこと。

②審判意見書を、審判意見書提出フォームに送信すること。

審判意見書は必ず提出する義務がある。（平成2年度主将会議にて決定）

※未記入のものは意見が記述されていないため、意見とは認めない。「特になし」はそれ自体が意見であるため、問題ございません。

③皆中者の報告

結果報告フォーム内に、十二射皆中者・二十射皆中者の名前を記入する欄があるため皆中者がいる場合必ず記入すること。

※試合結果報告書と審判意見書の郵送は不要とする。そのため、フォームに記載した内容が正式記録となりますので送信前に誤りがないか必ず3校（決勝戦の場合は4校）で確認した後、審判が送信するようにお願いいたします。

※結果報告書は、大会終了まで必ず保管頂きますようお願いいたします。

※フォーム回答後、記載内容の誤り等が判明し、結果報告書を修正した場合は、必ずフォームから再提出して頂きますようお願いいたします。

V. トラブル対策

- ・大会中に発生したトラブルに関しては、原則、審判がトラブル解決に努めること。解決できないと判断し、本部の指示を仰ぐ場合は、その決定事項に対して原則異論は認めない。
- ・大会中に発生したトラブルに関して、本部にする相談・報告は審判校が行うこと。審判校を介さない相談・報告には対応しないため留意すること。
- ・新人戦に関する問い合わせは仮設本部連絡先一覧を確認すること。

○行射中、的を立て直す必要があると認められた場合

- ①当該校が審判に的の立て直しを要請する。
- ②審判は、落の行射で当該校の立ちの進行を止める。
- ③当該校は、その的についてのみの的中確認を行う。

的前審判：「確認します。」

主審：「お願いします。」

的前審判：「○的○中です。」（的に中っている数を伝える。）

主審：「はい。結構です。」

- ④試合校が確認した的の矢を抜く。
- ⑤道場提供校が的の立て直しを行う。
- ⑥持ち的確認を行う。

⑦行射再開

※立ち終了後の的中確認では、的をかけ直す前の的中数と的をかけ直した後の的中数の合計した数値で確認を行う。

・試合校による立の中断は認められず、また審判は試合校からの申請がない限り、立の進行に介入する必要はない。立の途中で的中確認の必要があれば行う。

・矢が的などに掛かり危険な状態にある場合、当該校からの要請があれば審判は落の行射で一旦立ちの進行を止め、矢を取らせる。的中に関係する場合は確認を行い、審判に的中を伝える。その後、立ちを再開させる。

・矢を番えるときに筈が割れた場合、打ち起こしを開始する前であれば矢の交換は可能。（規

約第 84 条)

- ・失矢した場合、打ち起こし開始前であれば番え直しは可能。
- ・掃き矢の判定は、審判の判断に委ねられる。しかし、審判が判断できない場合は、看的の出した判定が正式記録となる。
- ・立ちと立ちの間が不必要に長く、試合が円滑に進行しないときは、当該校に注意を与える。
- ・追い越し発射が行われた場合、当該選手の引いた矢は失中とする。審判は試合中、追い越しをしていないか常に確認しておくこと。

VI. 各種留意事項

○選手について

- ・原則として審判の指示に従うこと。(規約第 54 条)
- ・全日本学生弓道連盟部員登録及び令和 5 年度後期部員登録を完了していること。なお部員登録が済んでいない選手が出場した場合、判明次第、失中とするので、十分に注意すること。

○審判について

- ・主審は原則、2 回生以上とする。
- ・試合終了後は、結果報告書及び審判意見書を送信すること。
- ・時間厳守であること。
- ・不明な点、トラブルが生じた場合は必ず審判が本部に連絡し、確認・報告をすること。(罰則や失中に関係することがあるので注意してください。)

○指導に関して

- ①射手が打ち起こして後離れを行うまでを「行射中」とし、何人も以下の行為を禁止する。
 - ・射手の狙いを見ること。
 - ・射手の身体に触れて指導すること。
 - ・射位より前に出ること。
 - ・審判から射手が死角になる位置に出ること。
- ②射手が射位にあるとき、介添え以外のものによる一切の指導を禁止する。
- ③①・②の規定に反した場合、相手校主将は審判に抗議する事ができる。
 - ・審判がその抗議を正当と認めた場合、当該選手の引いた矢を失中とする。

○介添えに関して

- ①人数は一立につき二名以下に限る。
- ②指導法は上記(指導に関して①)に反しない範囲で各校に任せる。
- ③待機場所は原則、本座とする(介添え以外と区別が出来ればよい)。

④狙いと立ち位置は別物と考え、射手の行射前に限り、介添えが立ち位置を見ることは可能とする。また、この際に、選手の身体や弓具に触れることは禁止する。

※上記以外で、審判が判断しかねるものについては、本部にすぐに連絡し、指示を仰ぐこと。

○人数の関係による的前監査（的前審判）業務不可能の場合について

各大学での人数により、的前審判（的前監査）の業務を行える人がいない大学の主将は、試合の3日前までに、大会委員長にその旨を連絡する。この内容を受けて、大会委員長から連絡のあった審判校は、主審1名、副審2名の計3名で試合会場へ行き、副審1名が申請のあった大学の的前審判（的前監査）業務を行う。黒板・点付け簿などは義務ではないので、試合の人数を優先すること。（平成18年度決定事項）

○試合の延期に関して

・トーナメント形式である以上、原則として翌週への試合の延期は認めない。但し、感染症の拡大や災害等により、全試合校の過半数の大学が試合不可となった場合に限り延期を認める。

・感染症等の理由で出場最低人数（5名）に満たなくなった場合は、当該校を不戦敗として扱う。

※出場不可となった場合は、事前に当該試合の試合校・審判校及び学連にご連絡下さい。

○遅刻に対する扱い

・規約第八十条二項に関し、「定刻」は集合時間を指すこととする。

・規約第八十条二項に関し、「正当な理由」の判断について、「正当な理由がない遅刻」は、基本的に「事前連絡がない場合の遅刻」をさす。事前連絡があった場合は、正当な理由かどうかを審判校、相手校との協議の上で決定する。判断がつかない場合は、本部責任者に連絡し、学連の指示に従うこと。（令和4年度決定事項）

※試合校が会場に遅れて到着する場合

・相手校、道場提供校、審判に連絡すること。

・学連本部には審判が連絡すること。

・連絡の際、試合校から詳しい理由を確認しておき、正確に報告すること。

・ホーム校、アウェイ校ともに集合時間は、各校が定める「お迎え」の時間とする。各校集合時間に遅れた場合、規約第八二条一項を適用することとする。

・前述の「遅刻に対する扱い」を参照のこと。

・その他対応に関して不明な点があれば学連役員に問い合わせること。

【正当な理由が無い場合】

・お迎えの時刻に遅刻した場合は、試合校・審判校との協議のうえ、当該校を棄権とすることができる。

・個人の遅刻に関しては、お迎えの時刻から 30 分以上の遅刻の場合は出場不可とし、30 分以内の遅刻の場合は出場可とする。

【正当な理由がある場合】

・当該校は、お迎えの時刻までに相手校・審判校及び学連本部へ連絡し、予想遅刻時刻を伝えること。予想遅刻時刻と延期基準時刻（1 時間）を照らし合わせ、以下の通り対処を決定する。

①1 時間以内の遅刻の場合

遅刻した時間分、タイムスケジュールをずらして試合を実施する。

②1 時間以上の遅刻の場合

試合翌日(月曜日)又は試合翌々日(火曜日)に延期する。

ただし、月曜日又は火曜日において、両校の都合が合わなかった場合は、遅刻した大学の不戦敗とする（新人戦のトーナメント形式という試合性質上、及び次週の試合に先立って事前準備を行う必要上、それ以上の延期は困難である為）。

※道場提供校が集合時間に遅れて到着する場合

・集合時間は、各校が定める「お迎え」の時間とする。

・お迎えが集合時間に遅れた場合、道場提供校側の遅刻とし、規約第四七条に基づき罰則を科す場合がある。

※審判が会場に遅れて到着する場合

・審判校の集合時間は、各校が定める「お迎えの時間」とする。

・審判は集合時刻に遅れる場合、試合校、道場提供校に連絡すること。また審判の集合時間への遅刻とし、規約四七条に基づき罰則を科す場合がある。

・審判は試合開始時刻に遅れる場合、試合校、道場提供校、および学連本部に連絡すること。

・試合開始時刻に遅れた場合、試合校両校から各 1 名ずつ出して審判(主審・副審それぞれ 1 名)を行い、審判到着次第業務を引き継ぐ。

・試合が終了しても辿り着くことができなかった場合、各校 1 名ずつの審判と各校主将の立ち合いのもと結果送信フォームにて結果報告を行い、主審担当校が審判校に試合終了を、副審が学連本部に試合終了を連絡する。

※正当な理由なく試合時刻に遅れた場合や正当な理由があっても連絡が無かった場合、審判の試合開始時刻への遅刻とし、規約第四八条一項に基づき、その審判の在籍校に懲戒処分がなされる。

○台風・暴風雨・地震の場合

- ・試合当日の午前5時時点で会場校地域に警報が発令されている場合は、試合を延期する。
- ・試合中に天候が悪化した場合又は地震が発生した場合は、審判と両校主将は3者協議を行い、試合再開または続行不可能、一時中断の判断を下す。続行不可能、一時中断と判断された場合は協議結果を至急、学連本部に審判が連絡する。特に強い地震が起こった場合、審判は選手が行射中であれば速やかに行射をやめるよう指示し、全員が身の安全の確保に徹すること。

VII. 各種 Google フォーム

- ・審判員登録フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfZ249IIG0jKnGB90UU_xyvrjyzVthxVAzBf3fEKCvRRM9PYg/viewform?usp=sf_link

※試合日の3日前までに記入すること。

- ・結果報告フォーム（審判校のみ使用）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSexAGvu7o9Jg4drz1y2vwZBQcx8GR76fV1oG5jj3IhTkAbOA/viewform?usp=sf_link

※結果報告フォームの記入は、試合終了後、審判校が行うこと。また、両試合校の代表者1名が立ち合い、記録に間違いがないか確認しながらフォームへ記入すること。

- ・審判意見書送信フォーム（審判校のみ使用）

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScg9u6p2nEKc3TFTaz-MGxTw12SzMslxGWckJhTG0se64AVpA/viewform?usp=sf_link

※審判意見書は試合終了後、当日中に上記フォームへ記入すること。